

福島県史料情報

第72号 令和7年(2025)6月



信達卅三所御詠歌 (日光院文書 300)

江戸時代のご当地出版物

江戸を中心に出版文化が花開いた江戸時代の中後期以降、出版物は一部の知識人だけでなく庶民の間にも広く普及する。

多くの場合、出版物は三都(江戸・大坂・京都)で出版され、行商人などを通じて全国各地の人々の手に渡り、長く愛読された。したがって、地方に残る江戸時代の出版物の大半は三都の板元製であるのが通例であるが、その地方で出版されたものも皆無というわけではない。

本県域に関して言えば、慶応二年(一八六六)刊の「信達卅三所御詠歌」がそれにあたる。「信達卅三所」とは、いわゆる信達三十三観音霊場のことで、現在でも信達地方一帯に散在する観音菩薩を巡礼することで御利益が得られるとされている。

同書には、各霊場の御詠歌が収録されており、巡礼に行けなくとも御詠歌を唱えることで、御利益を期待することができたのだろう。一番札所の小倉寺観音であれば、「おくらしや まつふくかせも おのづから せんじゆのちかい あらたなるらん」、二番札所の文知摺観音は「きのふ見し しのもちずり たれならん こころほとけぞ かきりしられず」といった具合である。

この詠歌集は、伊達郡白根村(現伊達市梁川町)の村人である「くの女」らが願掛けのために出版したもので、大都市の板元が出版した商業出版物と比べると、紙質も悪く、彫りや刷りの技術も劣っている。しかし、それでもなお出版に踏み切ったところに発願人たちの思いの強さを感じられまいか。

江戸時代の出版物は、一点物の古文書と比べると歴史資料としてはあまり注目されてこなかったが、こうしたご当地出版物はその地域の人々の思いが込められた貴重な存在と言える。

(山田 英明)

学芸会で演じられた 兵士慰問劇

アジア・太平洋戦争下の銃後社会では、出征・前線兵士の戦意高揚および慰労を目的として、慰問文や慰問品の贈与が行われた。昭和十二年(一九三七)の日中戦争勃発以来戦時色が濃厚となっていた教育現場では、かかる活動が盛んに実施されており、学校側は授業や学校行事を通して児童・生徒の兵士慰問に対する意識を涵養していった。

このことを示す史料の一例として、「慰問部隊」(西大枝区有文書九八一)が挙げられる。当該史料は、伊達郡にかつて存在した大木戸国民学校(のちの大木戸小学校)の昭和十七年度初等科六年生が学芸会で披露した演劇の台本と推定される。

演劇のあらすじは、以下の通りである。場面設定は、出征を翌日に控えたとある兵舎の前であった。出征前日になってもなお派遣地が知らされていなかった兵士たちがソロモン諸島方面かアリューシャン方面かで口論となる中、「大木戸村少女慰問部隊」のたすきを掛けた多数の少女が中隊長に連れられて登場する。少女たちは勝栗、アンボ柿・桜桃といった地域名産品、菓子、下着などの「立派な」慰問品を彼らに手渡す

が、十分な金も品物も持たない光子という少女は亡母の形見である「お粗末な」古い人形を差し出した。これは自身の命ほど大事なものであるが、戦死した兄の代わりに戦場へ連れていってほしいと光子は言う。兵士たちはその心持ちに感激し、もらった慰問品を食べながら少女たちの学芸を観覧する場面で幕を閉じる。

物語の展開上特徴的なのは、「立派な」慰問品の内容以上に、光子が「お粗末な」人形の贈与に込めた思いに焦点が当たっている点である。先行研究によると、慰問活動は銃後国民の心情面における戦争参加を求めるもので、ゆえに慰問品は経済的価値よりも精神性が重視されたという。当劇はかかる心情や精神性を正しく主題に据えていたのであった。以上のように、慰問活動に対する意識を高揚させる演劇を通じて、出演する児童も観劇する児童もその意識を徐々に発現させていったものと考えられる。



慰問部隊
(西大枝区有文書 981)

令和七年度行事予定

(令和七年四月～令和七年九月)

一、展示公開(収蔵資料展)

「江戸時代の出版文化」

江戸時代の人々を魅了した、板本や一枚刷りなどの出版物を取り上げた展示です。当時の人々が出版物を通じていかなる知識や情報を得ていたのか、あるいは出版物のなかで福島県域がどのような描かれているのかなどを、当館収蔵資料を用いて紹介しています。また、トピックス展「明治時代の白水阿弥陀堂」も同時開催しています。

【会期】開催中(七月二十一日(月)・祝)まで

【解説会】六月二十九日(日) 午後一時三十分より五十分程度

水郡線応援「東白川郡の古文書―鮫川村編―」

水郡線全線開通から九十年が経過し、水郡線活性化を応援するため、水郡線沿線地域(東白川郡)ゆかりの古文書を取り上げる第二弾の展示です。鮫川村に関係する古文書を示し、棚倉藩の検地、寺西封元の小児養育政策、幕府巡見使を迎える村の様子などを紹介します。また、トピックス展「ふくしまの、いまから80年前」も同時開催します。

【会期】八月九日(土)～十一月

二十四日(月・振休)まで

【解説会】八月九日(土)、十月五日(日)、十一月八日(土)、各回とも午後一時三十分より五十分程度

二、古文書講座

やや中級者を対象に、当館が収蔵する江戸時代初期の米沢藩に関する古文書をテキストとして、武家の文書に関する基礎的知識や信達地域の歴史を史料に基づいて分かりやすく解説します。

【日時】八月四日(月)、八月十九日(火)、十月二十二日(水)、十一月五日(水)、各回とも午前十時～十二時まで

【会場】福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ大活動室

【定員】百名(要事前申込、先着順)

三、資料閲覧について
電話で予約された方の資料閲覧を最優先とします。詳細や最新の情報はHPでご確認願います。

福島県史料情報

第72号 令和7年6月25日

編集・発行

公益財団法人 福島県文化振興財団

福島県歴史資料館

〒960-8116 福島市春日町5-54

TEL 024-534-9193 FAX 024-534-9195

URL <https://www.fcp.or.jp/history/>

E-mail history@fcp.or.jp